

令和7年度 第4回学校運営協議会 次第

浜松市立三方原中学校

司会 教頭

※ 開催要件確認

1 会長挨拶

2 校長挨拶

3 議長の選出

4 前回会議録の確認

5 熟議(議長)

(1) 令和7年度学校関係評価

- ・主幹教諭からの説明(成果・課題・改善策)
- ・生徒指導主事からの説明(学校いじめ防止基本方針に基づく取組状況、課題等)
- ・説明を受けての熟議

(2) 学校運営協議会の自己評価

- ・学校運営協議会の取り組みについての振り返り

(3) 令和8年度学校運営の基本方針の説明(校長)

6 協働センター所長より 感想、意見

7 報告

(1) 夢育やらまいかCS加算分の報告(教頭)

8 連絡

- ・来年度開催予定日時について

第1回 令和8年 4月17日(金)14:00～

第2回 令和8年 6月 1日(火)14:00～

第3回 令和8年12月 1日(火)14:00～

第4回 令和8年 2月16日(火)15:00～

閉会

三方原中学校 学校運営協議会 委員一覧

三方原中後援会顧問・学校運営協議会代表	中川 秀三
地区自治連合会長・学校運営協議会委員	鈴木 登志郎
学校支援コーディネーター・学校運営協議会委員	中村 雅俊
三方原中 PTA 顧問・学校運営協議会委員	岡本 秀人
三方原中 PTA 会長・学校運営協議会委員	細川 銀河
三方原中 PTA 会計監査・学校運営協議会委員	磯部 聖子
三方原中 PTA 副会長	中村 雅臣
三方原中 PTA 副会長	中野 久美子
オブザーバー 三方原協働センター所長	澤木 克彦

三方原中学校 CS担当職員

校長	足立 成寿
教頭	岡田 政之
主幹教諭	古橋 宏直
生徒指導主事	山岡 文彦
CS担当	大津 幸三郎
CSディレクター	外山 直世

令和7年度 第3回 三方原中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年12月2日（火） 14時00分から15時30分まで
- 2 開催場所 三方原中学校 被服室
- 3 出席委員 中川 秀三、鈴木 登志郎、中村 雅俊、岡本 秀人、細川 銀河
磯部 聖子、中村 雅臣、中野 久美子
- 4 欠席委員 なし
- 5 浜松市教育委員会 鈴木 陽子
- 6 学 校 足立 成寿（校長）、古橋 宏直（主幹教諭）、堀野 直子（1学年主任）
大津 幸三郎（CS担当）、外山 直世（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録制作者 CSディレクター 外山 直世、CS担当 大津 幸三郎
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、中川委員から細川委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

(1) 「総合的な学習の時間」における体験学習について

① 1年地域学習について

(2) 教育活動の経過報告

(3) 部活動の地域クラブ化について

11 会議記録

司会の古橋主幹から、委員総数8人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 「総合的な学習の時間」における体験学習について

① 1年地域学習について

議長指示により1年学年主任堀野から別紙資料に基づき1年地域学習について説明があり、委員からは以下の意見があった。（2人は遅刻参加）

- ・例年いい子たちが来てくれる。農業を体験してもらうのはなかなか難しいが、出荷作業をやってもらったり、農業PR動画を見てもらったり、皆さん、興味を持ってくれたようでよかった。工業系が少ないと思ったので、来年度に向けてパイプができるといいと思っている。工業系を広げていきたいと思っている。（中村委員）
- ・三方原中ならではの職業体験でとてもいいと感じた。このような形で続けるといいと思う。（古橋）
- ・暑くなくてとてもいい季節だった。（中村委員）
- ・大人と子供の仲を取り持つのはとても大変なこと、その点で中村さんにはずいぶんお世話になっている。感謝している。（中川委員）
- ・三方原中の生徒は、とてもいい生徒ばかりで助かっている。（中村委員）

- ・うちは木工会社をやっている。人気はないが、対応はできる。(中川委員)
- ・大原浄水場とかもいいと思う。(岡本委員)
- ・先生からの依頼があれば、都合をつけて動きますので何でも言ってください。(中川委員)

(2) 教育活動の経過報告

議長指示により、古橋から教育活動の経過報告について報告があった。

- ・質問や意見はなく次の議題に進んだ。

(3) 部活動の地域クラブ化について

議長指示により、校長から別紙資料および動画による説明があった。

- ・来年9月より「はまクル」となる。(校長)
- ・MACであげるなら、一つ一つあげないのか。なかなか難しいことだと思う。(岡本委員)
- ・地域に丸投げしてもできるわけがない。文科省でもう少ししっかり考えてから、ベースになるものを決めてから動いてほしい。(中川委員)
- ・ご意見をいただきながら固めていくと思う。(鈴木陽子)
- ・部活は必要と言っているのだから、文科省は先生に払うものは払ってやっていけばいい。
(中川委員)
- ・学校で行うのは、学校教育の一環、地域で行うのは社会教育の一環で、イメージがばらばらでまだまとまっていなと感じる。(鈴木陽子)
- ・きちんとした予算が必要だと思う。(中川委員)
- ・来年の9月が一斉なのか。(中川委員)
- ・既にやっているところもあります。(校長)
- ・中体連もなくなる可能性もあるんですよね。(細川委員)
- ・なるようにしかならない。これは先生方に言っても仕方がない内容だと思う。
(岡本委員)
- ・入学する子が決められない。どうしたらいいのだろうという子が多いと思う。部活に対してはまだいろいろな意見があると思うので、今後も続く課題になると思う。(細川委員)
- ・平日は普通に部活があるのなら救いだと思う。(岡本委員)

12 教育委員会 鈴木陽子先生より

活発な話し合いを聞かせていただいた。信頼関係で繋がっているのがわかる。地域学習は特色ある三方原中の教育活動にさせていただけるといいと思う。

14 協働センター所長より

欠席のためなし。

15 報告

特になし。

16 連絡

- ・司会から、次回会議は令和8年2月17日(火)15時から被服室で開催する旨の報告があった。



みかた

三方原中学校だより
令和7年度 第11号
(R8.2.16)

◇学校評価・来年度に向けて◇

本年度の教育活動も無事に終えようとしております。生徒たちの活躍、保護者や地域の皆様の御協力や御支援のおかげだと感謝申し上げます。また、学校評価への御協力ありがとうございました。生徒、保護者それぞれの項目を下の表にまとめました。貴重な御意見をいただき、重ねて感謝申し上げます。これをもとに今後も生徒が安心でき、がんばれる学校、保護者や地域の皆様に支えられる学校を目指して、努力してまいりたいと思います。なお、アンケート結果につきましては、学校運営協議会に結果を公表して御意見をいただき、来年度の教育活動の充実へつなげていきたいと思っております。以下に、アンケートの考察を記載いたします。

※アンケート項目のうち、生徒の内容と保護者の内容がほぼ同じものを並べてあります。生徒だけのもの、保護者だけの項目もあります。

□ は生徒、 ■ は保護者 ※数値(単位は%)はそう思う・大体そう思うの合計

項 目		R5	R6	R7
学 習	あなたは学校生活に満足していますか。	89.3	92.7	93.1
	学校は、生徒が力を伸ばす教育に努めている。	85.9	89.2	88.0
	先生は、勉強がよくわかるように教えてくださいますか。	91.3	93.3	90.3
	学校では、基礎的な学力が身に付くようなわかりやすい授業をしている。	80.6	85.4	81.0
	勉強がわからない時には、先生に聞くことができますか。	69.1	75.4	72.7
	勉強がわからない時には、友達に聞くことができますか。	92.6	93.8	93.0
	家庭学習を毎日していますか。	62.9	58.5	57.3
	学校は、家庭学習に毎日取り組めるよう支援をしている。	60.8	68.3	61.0
	本を読むことで、知識や国語力が身に付きましたか。	73.2	71.0	73.5

○学習面の評価を受けて(目指す生徒像:基礎・基本を身に付け、活用する生徒)

生徒の学校生活の満足度や授業のわかりやすさは、肯定的な意見として9割を超える評価になっており、特に学校生活の満足度は伸びています。保護者については8割を超えていて、良い評価をいただけていると思います。学校において一番大切なのは授業であると考えております。その中で、この評価は職員の頑張りや保護者の皆様の御協力によるものだととらえています。ただ、授業でよくわからないところを聞きにくかったり、クラスに3名から4名(約10%)は、わからないままになっていたりと思われま。

授業の中でどの生徒も「できた」「わかった」と感じ、次への課題に主体的に取り組んでいく、そんな姿が、今、そして今後求められる学びの姿です。それに向けて、学校では、教師一人一人が授業改善を試みなくてはならないですし、それが誰一人も取り残さないことにつながるのではないかと思います。指導方法や授業内容を改善し、生徒を支える支援や手立てを行うことが必要で、それが今後の課題だと捉えます。

さらに、家庭での学習習慣が身に付いている生徒は半数余りと考えられます。その状況が、ここ数年続いているように思います。家庭学習の内容や方法について、丁寧な対応が必要だと考えます。学習内容の定着のためにも方法や手立てを講じていきたいと思っております。

	項 目	R5	R6	R7
生活	学校全体として、さわやかなあいさつが友達や先生にできていますか。	89.5	88.8	87.8
	学校では、さわやかなあいさつができるよう指導している。	90.1	91.6	87.0
	あなたのクラスは楽しく、教室は安心できる場所ですか。	85.0	88.1	90.1
	学校は、いじめのない学校、学級、集団づくりに取り組んでいる。	86.8	88.7	86.0
	あなたは、困った時などに先生に相談することができますか。	69.6	75.9	74.8
	学校は、子どもが困った時に力になってくれている。	83.5	85.8	86.0
	先生は、がんばっていることをほめてくれますか。	84.9	87.5	89.5
	あなたは、健康に留意し、規則正しい生活ができましたか。	82.0	84.0	82.7

○生活面の評価を受けて(目指す生徒像:人とのかかわりを通して育つ生徒、命を大切にす生徒)

生徒のにとって安心できる場所、そして楽しい学級になっていると感じる生徒が多く、保護者も同様に良い評価を得ています。しかし、一定程度、そのように感じていない生徒と保護者がいることも確かです。また、先生に困った時に相談できる、力になってくれる点においても、結果から、同じようなことが言えると思います。子供たちが安全で安心できる場所、それが学校、学級でなくてはなりません。もちろん、いじめは許されない行為です。安心感をもてていない生徒や悩みを抱えている生徒に対して寄り添った指導ができるよう、一人一人の生徒の正しい理解をし、支援できるよう努めてまいります。

あいさつについての評価ですが、9割程度のような評価を得ていますが、ここ3年でその値が下がりがつつあるように思います。教師側からだけでなく、生徒会活動でも取り組んでいます。あいさつの大切さは様々な場面でお話を聞いていることや、小学校からも指導を受けてきているので、誰もがその重要性について理解をしていることと思います。だからこそ、学校全体で今後もさわやかなあいさつができるよう取り組んでいきたいと思っています。

	項 目	R5	R6	R7
その他	学校行事に友達と協力して一生懸命取り組みましたか。	96.3	96.8	97.0
	学校は、学校行事に一生懸命取り組めるように支援している。	96.9	97.3	97.0
	あなたは、目標をもって部活動や校外活動に取り組んでいます(いました)か。	94.9	94.6	93.5
	学校は、さくら連絡網や学年だより、その他の方法で情報をよく発信している。	91.3	94.4	95.0

○その他の評価を受けて(目指す生徒像:人とのかかわりを通して育つ生徒)

学校行事については、非常に高い良い評価を生徒、保護者共にいただいております。二大行事の体育大会、三翔発表会が評価対象の主なものであると思われませんが、生徒の取り組みの様子、各縦割り集団の取り組み、合唱における各学級の取り組みは、まさに一生懸命そのものだったと思います。毎年3年生中心に行事を盛り上げ、それを後輩たちが引き継いでいることの表れだと考えます。

また、部活動の評価も高く、懸命に取り組む三中生だと思えます。地域移行が進められますが、来年度も引き続き生徒の活動を支えていきたいと思っています。

最後に学校からの情報発信についてです。おおむね良好の評価をいただいております。個人情報にかかわる点もあるため、その点に注意しつつ、今後も学校の教育活動の様子をお伝えしていきたいと思っています。

自由記述では、学習面、生活面などいろいろな点で御意見をいただきました。改善できるところは改善し、今後の教育活動にいかしていきたいと思っています。

来年度も、校訓「大地に育め 自立 共生」を胸に刻み、子供たちが通いたい、地域・保護者に支えられ、先生たちも元気に生徒と活動ができるような学校を目指してまいります。引き続き、御理解、御協力をよろしくお願い致します。

学校運営協議会 「いじめ問題への取組について」

三方原中学校 生徒指導部

1 いじめ問題への取組について課題及び見直しが必要となった点や今後に向けての改善点

- ・「いじめをしない」「いじめを許さない」ということを生徒自身が強く自覚することができる自主的な活動を取り入れ、心の醸成を図っていく必要がある。
- ・生徒が主体となって、生徒会活動などで「いじめを許さない」雰囲気築いていく必要がある。
- ・SNSに起因したいじめトラブルが続出している。生徒一人一人の情報モラルを高めていく必要がある。今後は、学期に1回程度は情報モラル講座を実施していく予定である。
- ・はまっついじめアンケートを実施後、アラートがあがった件に関して、学年で情報共有をしながらいねいに聞き取りをしていく必要があるが、そのための時間が十分でない現状がある。そのため、日課等を変更し、工夫して時間をうみだしている。来年度以降も、いじめ対応に係る時間の確保が課題として挙げられる。
- ・いじめ問題の裏には加害者の不満（家庭など）が隠れていて、問題解決を難しくしている現状がある。加害生徒への対応も含めて慎重に行っていく必要がある。

2 「学校いじめ防止基本方針」の見直し内容

見直し内容及び理由

- ・「三方原中学校年間指導計画」を、学校の年間計画に準拠する形に変更する場合もある。

1 趣旨

この要項は、浜松市学校運営協議会規則(令和元年 浜松市教育委員会規則第2号)第8条に規定する学校運営協議会(以下「協議会」という。)の自己評価の実施について必要な事項を定める。

2 評価の目的

各協議会が、自らの取組について、その取組内容や達成状況等について自己評価し、改善につなげることにより、保護者、地域住民等の対象学校の運営への参加を促進し、当該運営の改善及び児童生徒の教育活動の充実を図る。

3 評価の実施

協議会は、以下の評価項目について自ら評価を行う。

<評価項目>

(必須) ※全ての協議会で行う。

- 1 学校運営の基本方針について熟議することができたか。
- 2 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。
- 3 協議会の結果について、十分な情報発信を行ったか。
- 4 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

(参考) ※各協議会で追加する項目があれば設定する。

4 自己評価の結果の報告書の作成

協議会は、自己評価結果を様式1により、簡潔にとりまとめる。

5 評価結果の公表

協議会は、自己評価の結果について、CS便りや学校のホームページ等を活用し広く保護者や地域住民等に公表するよう努める。

6 評価結果の報告と改善支援

(1) 教育委員会への報告

協議会は、様式1を当該年度末の指定する日までに教育委員会へ提出する。

(2) 教育委員会による改善支援

ア 様式1の活用

様式1は教育委員会教育総務課が集約し、各協議会の運営状況について把握するための資料とする。

イ 評価結果等に基づく改善支援

教育委員会は、評価結果等に基づき、各協議会の取組の改善が図られるよう、必要な助言又は指導を行う。

附 則

この実施要項は、令和2年9月1日から施行する。

この実施要項は、令和5年4月1日から施行する。

(様式2)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

委員名 ()

<本年度の目標>

- ※ 前年度に協議会で協議した目標を記載する。
- ※ 目標が、会議体として相応しい目標となっているか、また、学校運営の基本方針に関わることを中心に据えられているか等を確認する。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

- ※ 参考資料【熟議チェックシート】の評価項目1をもとに、振り返る。
- ※ 委員個人の評価ではなく、協議会としての視点で評価する。
- ※ 学校運営の基本方針（自校の学校教育目標や「育てたい力」等）について、協議した内容を簡潔に評価する。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

- ※ 参考資料【熟議チェックシート】の評価項目2をもとに、振り返る。
- ※ 委員個人の評価ではなく、協議会としての視点で評価する。
- ※ 成果・課題などを簡潔に記載する。方法論だけではなく、「育てたい力」や「目指す子供の姿」とのつながりをポイントにする。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

- ※ 協議会での協議結果（会議録への記載内容等）について、どんな方法による情報発信を行ったか、それによってどのような効果があったのか等を振り返って記載する。
- ※ 委員個人の評価ではなく、協議会としての視点で評価する。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- ※ 委員個人の目標ではなく、協議会の目標を記載する。
- ※ 学校運営協議会は、会議体であるため、会議体として相応しい目標を設定する。委員が、個人としてボランティア活動に参加することは想定されるが、学校運営協議会がボランティア活動の主体となることは想定していない。
- ★ 自己評価の結果については、学校ホームページで公表する。

【参考資料】

【 熟議子エックシート 】

氏名 ()

できている もう少し

	校長の説明を聞いて、分からない用語や疑問に感じたことを遠慮なく質問し、それに対して理解・納得できる回答が得られた。
	基本方針の承認にあたり、校長の説明を聞置くだけでなく、よりよい学校運営のために委員が建設的な意見を発言できた。
	委員が、学校教育目標や学校運営の基本方針についての内容を理解し、共有した。
評価項目 1	学校評価などの評価結果を生かした改善について確認した。
	学校運営について、委員が率直に意見を述べることができました。
	学校の教育目標と学校支援活動とのつながりを意識して、協議会で協議を重ねた。
評価項目 2	熟議の結果、学校、家庭、地域がそれぞれ実行すべきこと、役割分担が明確になった。
	これまで行われてきた学校支援活動についても、教育目標とのつながりや学校、家庭、地域の役割分担を考え、見直すことができた。
	協議会で決定し、実施した学校支援活動について、振り返りや反省を行った。

(様式2)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

委員名 ()

<本年度の目標>

- ・学校の要望をしっかりと理解し、そのニーズに応じた支援活動を継続していく。
- ・地域、家庭、学校が共通理解しあい、同じ方向を向いて学校の充実のための建設的な会にしていく。さらに地域ができることを前進させることができることよい。
- ・協議会で話されている内容や取組について、積極的な発信により認識を深めることで学校、家庭、地域のそれぞれの実行すべきことをより明確にしていく。
- ・協議委員が直接生徒や教師などコミュニケーションの深化を図り、より具体的な取り組みができるようにしていく。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

1 学校概要

R8年度 総生徒数 699名

学年	生徒数	クラス	知	自情
1	242	7	6	1
2	229	7	4	5
3	206	6	4	2
合計	677	20	14	8

三方原の地は、昭和20年代後半に全国から幅広い人々が集まり、開拓によって発展してきた。比較的、歴史は浅く、人とのつながりは薄いという課題を抱えてきた。本校は、市内26番目の新設校として北星中より分離し、昭和59年(1984年)に開校し、令和8年度43年目を迎える。その間幾度となく生徒の問題行動が多発した。そんな中、問題行動への対処の一環として、平成15年ごろより自治会が中心となり、地域の有志の方々が交通指導を行い、生徒の様子を見守りながら声掛けを行って来ている。また、「自分で考え、自分で判断し、自分で実行できるたくましい心」をもった生徒に育てて欲しいという校訓「大地に育め 自立 共生」に地域の思いが込められている。それ故「開拓地に創立された地域とともに歩む三方原中学校」であることを忘れてはならない。

本校でも学校運営協議会が令和3年度に設置され、コミュニティ・スクールの運営もスムーズになされている。近年は農地が宅地化されることが増え、10年前よりも生徒数は約100名ほど増加しており、700名規模の生徒数は、浜松で2番目(きっとそうだろう)に多い学校となっている。

2 生徒の実態(生徒アンケート他より) ※R7(R6:R5)

学習面

- 「先生は勉強がよくわかるように教えてくださいか」90%(93%:91%)
- 「勉強がわからない時には、先生に聞くことができますか」72%(75%:69%)
- 「家庭学習を毎日していますか」57%(58%:63%)

生活面

- 「学校全体としてさわやかなあいさつができていますか」89%(88%:89%)
- 「困った時に先生に相談できますか」75%(76%:70%)
- 「クラスは楽しく、教室は安心できる場所ですか」90%(88%:85%)
- 「先生はがんばっていることをほめてくれますか」89%(87%:85%)

特別活動面

- 「学校行事に友達と協力、一生懸命取り組みましたか」97%(97%:96%)
- 「目標をもって部活動・校外活動に取り組みましたか」93%(95%:95%)

以上を踏まえたうえで、○強み：●弱み ととることができる。

- 教室は安心できる、学校は楽しいと感じている子が多い。
- あいさつができる子が多い。
- 行事や部活動等に熱心に取り組む子が多い
- ▽相談できる先生が多い。先生を頼っている子が多い。

- 学習面でつまづいている子が10%程度(クラス4名程度)いると考えられる。
- 家庭学習が充実できていない。習慣化できていない。

その他 長期欠席・不登校生徒6.4%(8.2%:6.9%)

特に注目しなければならない点

- ・授業で分からないままになっていないか?
- ・家庭学習習慣が身に付いていないのではないか?
- ・1クラスあたり、学級に安心感をもてない生徒が3人程度いるのではないか?
- ・部活動に熱心に取り組んでいる生徒がたくさんいる。→部活動の地域展開に向けて
- ・行事に熱心に取り組む生徒がたくさんいる。

3 本年度の学校経営方針

(1)校訓 「大地に育め 自立 共生」

(2)学校教育目標

「高い知力 豊かな心 丈夫なからだ」

(3)目指す生徒像

- ・基礎基本を身に付け、活用する生徒
- ・人とのかかわりを通して育つ生徒
- ・命を大切にする生徒

(4)学校経営目標(目指す学校像)

「子供も保護者も職員も地域も、だれもが行きたい、通わせたい、勤めたい、支えたい学校づくり」

- ・学校にかかわる人、すべての人にとって「しあわせな学校」を目指す。
- ・すべての人のウェルビーイングを念頭に置いた学校経営を行う。

子供：学校が楽しい。授業がよくわかる、よくできる。行事が楽しい。友達と仲良く楽しくできる。信頼できる先生がいる。話をよく聞いてくれる先生がいる。

保護者：安心して子供を通わせることができる。頼れる職員がいる。授業が分かりやすい。行事が充実している。施設が充実している。学校の様子がよくわかる。

職員：生徒と共に活動したい。教科の楽しさ、面白さを教えたい。職員のチームワークがよい。職員間でいろいろな相談ができる。働き方改革を進めている。

地域：地域との連携をしてくれる。地域のことを理解してくれる。頼れる職員がいる。学校を地域に公開している。

(5)本年度の重点・具体的な取り組み(目指す子供生徒像・育てたい力に向けて)

基礎基本を身に付け、活用する生徒(学習課題を解決する力・自分の適性を見極める力)

- ・授業改善を進める…授業はすべての指導の基本。ICT活用した授業研究を進める。「わかった・できた」と生徒が感じる授業、授業で生徒を置き去りにしない。
- ・「主体的、対話的で深い学び」を追求した授業の構築(校内研修の充実)
- ・家庭学習充実に向けた生徒支援

人とのかかわりを通して育つ生徒(社会と上手にかかわる力・将来の自己計画を立てる力)

- ・いじめの早期発見、未然防止、初期対応の充実…「いじめ防止基本方針」に沿った指導を確実に

進める。(生徒理解の上に立った生徒指導、生徒に寄り添った生徒指導)

- さわやかなあいさつと礼儀の推進
- キャリア教育を進める…キャリア教育の年間計画の見直しと、それに沿った指導の充実、各種体験学習(地域・職業・福祉)の実施
- 生徒を主体とした特別活動(生徒会活動や学校行事)の充実
- 道徳的価値項目を大切にした授業実践
- 不登校、長期欠席生徒への丁寧な対応と一人一人を大切にした支援の充実

命を大切にする生徒(人間関係を形成する力・心身の自己管理をする力)

- 健康管理を意識させる各種講座の実施
- SCやSSWを活用した生徒、保護者の支援
- 防災や安全意識を高める防災教育、安全教育の実施
- 命を大切にする授業の実施

(6) その他重点を置きたい取り組み

- 職員の働き方改革を進める。(働きやすい職場環境の構築)…職員の悩みを取り除き、明日も元気に学校で働きたいと思う先生の育成、支援
- 学校公開の充実を進める。…保護者のみならず、地域を含めた学校公開を進める。
- 三中プライドの継承
- AI(人工知能)活用

4 最後に(もしかしたら最初に?)

浜松市ではR7年度より第4次教育総合計画を新たに進め、R8年度は2年目となる。また、次期学習指導要領(「2030年の学校教育の姿」を描くとされる)に向けて様々な提言がされている中で、総合計画では、「未来創造への人づくり」「市民協働による人づくり」から、「描く夢や未来の実現」という基本理念に受け継がれた。そして3つのキーワード(「主体性」「多様性・包摂性」「信頼・協働」)が挙げられている。これらは「はままつの教育」において必要不可欠な内容となっている。また、部活動の地域移行を見据えた生徒支援、職員の働き方の変革もR8年には対応を求められる。

コロナ禍のような予測困難な時代(VUCA)、さらには人工知能の発展による社会の大きな変化、変革の時代においても、私たち教職員は、学校教育において教育の目的(教育基本法第1条)を達成しなければならない。今の時代を生きている子供たちの将来にわたっての幸せだけでなく、今の幸せをも保障するために教育を行っていかねばと考える。そのためには自分たちも含めた、学校にかかわる人々すべてのウェルビーイングを念頭に置いて、三方原中における教育活動を進めていきたい。

各位

※別冊資料を参照

浜松市立三方原中学校
校長 足立 成寿

学校運営協議会委員研修会（オンライン）の開催について（御案内）

日頃は、浜松市の教育に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、学校運営協議会委員及び来年度新規委員候補となる方等を対象に、下記のとおり研修会を開催いたします。御都合のつく方はぜひ御参加をお願いいたします。

記

- 1 目的 学校運営協議会委員のコミュニティ・スクールに対する理解を深め、学校と地域が連携・協働しながら子供たちを育む意識を高める。
- 2 日時 令和8年2月25日（水） 午後2時から午後3時30分
- 3 方法 オンライン受講（Zoomによるライブ配信）

招待リンク <https://us02web.zoom.us/j/89819089779?pwd=oe7vEZP10EWNQfj762YHjq06p5MCv.1>

ミーティングID： 898 1908 9779

パスコード： 112244

右QRコードからもアクセスできます。



■開始5分前までに接続してください。

■入室時は次の形式で入力してください。

【学校名+氏名】 例：〇〇中学校 浜松花子

■接続がうまくいかない場合は、下記へご連絡ください。

浜松市教育委員会 学校・地域連携課 地域連携グループ TEL 053-457-2423

- 4 対象者 学校運営協議会委員・来年度新規委員候補者

5 内容

- (1) 趣旨説明 浜松市教育委員会 学校・地域連携課 地域連携グループ
- (2) 講話 「学校運営協議会の活用と学校課題の解決」
講師 文部科学省CSマイスター、ふくしま学校と地域の未来研究所 安齋 宏之 氏
概要 ・学校運営協議会の役割と仕組み
・学校・地域が協働する取組事例の紹介 等

6 その他

- (1) 当日の資料は、1週間前を目途に、学校を通じてお渡しします。
- (2) 本件に関して御不明な点がございましたら、担当まで御連絡ください。

浜松市立三方原中学校
担当 岡田政之（教頭）
電話 436-7823 FAX 436-7310